

寒川町議会議長 様

令和4年11月11日

住所

氏名 山蔦 紀一 印

電話番号

## 「ツインシティ計画」の 「経済効果」の再検証を求める陳情

### 1. 陳情の要旨

寒川町倉見地区に新幹線新駅を誘致することを骨格とする、「ツインシティ基本計画・整備計画」が23年前から進められています。しかし、この計画の根拠となった「経済効果の予測」は、2007年に神奈川県から発表されて以降、15年間一回も「再検証」されていません。これでは、この計画は成功しません。この「再検証」を求める「要望書」を、急ぎ、町並びに神奈川県に提出して下さい。

### 2. 陳情の理由

「ツインシティ基本計画・整備計画」が策定されてから23年経ちましたが、その間に次のような大きな社会情勢の変化がありました。これは、計画推進の是非に関わる非常に大きな変化です。

- 1) 第1の大きな変化は2010年、JR東海が「リニア中央新幹線」の着工を発表したことです。もし、リニア新幹線が開通すれば、倉見駅から橋本駅

を經由し小1時間で名古屋へ行けるようになります。当然、「ツインシティ計画」の経済効果を劇的に変えると思われます。

2) 第2の大きな変化は、町財政悪化の懸念です。

高齢化率は2050年に38%に達し、これに伴って町の医療・福祉費などの負担は間違いなく増えます。また、高度成長時代に建設した下水・道路・学校・庁舎などの町のインフラの更新時期がぐっと近づきました。

「ツインシティ計画」だけではなく、今までの町の計画を、全てその存在意義から見直す時期に来ていると思います。

神奈川県も、3500億円あまりのリニア橋本駅関連の投資をするので、財政的な余裕はなくなると思われます。

3) 第3の大きな変化は、当時当たり前であった「税収増を約束せず、必要な財源を考慮せず、夢を追う計画」が通用しなくなって来たことです。

政府は、「地方への交付金・補助金の費用対効果」を調べ、「KPI」を重要視する方針（新経済・財政再生計画 改革工程表2019）を示しています。

また、ロシアのウクライナ侵攻に伴う円安やインフレに対応するため、国は大規模な財政出動を計画しており、その多くが次世代の負担になる可能性が指摘されています。

楽観的に「景気が上がればなんとかなる」と言えなくなって来ていると思います。

以上